

# 願成寺報

平成二十三年九月十六日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## ■ 秋季彼岸・永代経のご案内

左記により勤修いたします

万障お繰り合わせてお誘い合わせてお参り下さい

## ● 草取り会

境内・墓地の草取り・掃除会を催します

皆様と仲良く楽しくお掃除したく思います

親睦が目的です お気軽にご参加下さい

コンビニ弁当ですが 昼食までお付き合下さい



九月 二十二日 (木)	
午前 十時	草取り会・昼食
午後 一時	法要のみ
二十三日 (祝)	
午後 一時	法要のみ
二十四日 (土)	
午前 十時	法要・法話
午前 十二時	お斎 (粗飯準備いたします)
午後 一時	法要・法話

法話 岡崎市 浄泉寺  
戸田 恵信 師

## 「盲冥を照らす」

弥陀成佛ノコノカタハ イマ二十劫ヲヘタマヘリ

法身ノ光輪キハモナク 世ノ盲冥ヲテラスナリ

《讚阿弥陀佛偈和讚・親鸞聖人》

仏説無量寿経によると

阿弥陀様は、ビッグ・バン (宇宙誕生) より以前から

生命に寄り添い、生命を照らして下さっている光の仏様です。

その光で照らし出すお目当ては、世の盲冥です。

盲冥とは、先のこと判らず迷っている人のことです。

盲冥の立場からすると、歩む先を照らしてほしい、

迷いを晴らしたい…

けれど阿弥陀様は、盲冥そのものにスポットライトを当てます。

迷いは無くならない、けれど暖かい。

それは、迷いの今、肌を感じる事が出来る光です。

五里霧中の闇の中だからこそ、感じられる温もりがあると、

お釈迦様が説かれています。

私の思いや立場を少し棚の上上げてみる。

すると、数えきれないほど沢山の絆、

ご縁の働きの中であつたと気づき、温もりに目覚めます。

想定外の暗い迷いも、阿弥陀様と一緒に受け止めていかれます。

お念珠を持って「私の願いはワガママ」と、お念仏申しませう。

「仏の願いはソノママ」と聞こえてきます。

そのスポットライトの中、

それぞれのステージを

一歩一歩歩んで参りましょう。



## ● 正信偈ノート②・題名の由来

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

### 顕浄土真実教行証文類の中の正信偈

真宗高田派では、この書物を『教行証文類』と略称しています。親鸞聖人五〇歳ごろのご著作で、法然上人から授かったお念仏の教えが仏教の本流であり、浄土教の真実を顕かにしようとした書物です。この書物の後序には、次のような文章が見られます。

慶ばしきかな。

心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。

深く如来の矜哀を知りて、良に師教の恩厚を仰ぐ。

慶喜いよいよ至り、至孝いよいよ重し。

これによりて、真宗の詮を鈔し、浄土の要をひろう。

唯仏恩の深きことを念じて、人倫の嘲を恥じず。

若しこの書を見聞せん者は、

信順を因と為し、疑謗を縁と為し、

信樂を願力に彰し、妙果を安養に顕さん。

「同行二人」という言葉がありますが、阿弥陀仏に抱かれて眼を輝かせて執筆している聖人の姿が目には浮かびます。正信偈は、このような書物の行巻の末に添えられた偈文です。

### 偈前の文

しかれば大聖の真言に歸し、大祖の解釈に閱して、

仏恩の深遠なるを信知して、正信念仏偈を作りて曰く

偈文の前に置かれた文章で、題名と制作意図を伝えていきます。

「釈尊の説かれた弥陀の本願を拠り所とし、七人の高僧方の領きを力として、私の上に働いている仏恩の深さを尋ね続けること。

それが念仏者の生き方であり、慶びである。今これまでに、私に領けている所を、正信念仏偈として記す」と理解しています。

### 正信ということ

正信は、妄信・邪信に対する心です。不安定な心で藁をも掴む信心ではなく、我欲を中心に自分勝手に作り出す虚構の信心でもありません。逆に、「我欲（＝自我）が否定されても大丈夫」という信心が正信なのだと思います。

「想定外の苦しみの中では、想定外の絆に目覚め得る」と信じることかも知れません。それが妄信でないと論証することは出来ませんが、震災や津波で何もかも無くした被災者の明るい笑顔に接し、そんなことが思われます。

では何故、私は明るく笑っていないのでしょうか？ 自らの煩惱に惑わされているからだど、仏教では説きます。正信は、煩惱から離れられない凡夫としての私を、鏡のように映しだして下さる働きをします。もし、その姿をありありと見たならば、真実のない私と、それを知らしめた真実（＝鏡、＝仏）が実体化して、信頼しうるものとなるでしょう。そして、その真実が「お前を見捨てない」と呼びかけて下さっていたのです。

聖人はこころの底から喜ばれたのではないのでしょうか。そんな感動の中で正信偈を執筆されたのだと思います。

### 正信念仏偈

「弥陀に任せよ」の念仏に、「はい」と頷く正信。

そこから開かれてくる世界を慶ぶ。

六十行、百二十句の文言は、そんな内容で満たされているのだと思います。

このことから離れないように注意しながら正信偈本文を味わって行こうと思います。それは、正信偈を鏡として自分を見つめる作業になります。力不足で心配だけど、方角は間違っていないと思います。

## 「本山参拝のお誘い」

### 本山納骨堂法会・団体参拝

毎年恒例の日帰り参拝です

市内・近郊のご寺院様と共に貸切バスにて参拝します

■期日 平成二十三年十一月三日（水・文化の日）

■日程 六時 三十分 寺・豊橋駅集合

十時 〇〇分 本本着

十五時 〇〇分 中部国際空港

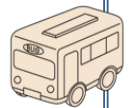
十八時 三十分 豊橋着（予定）

【参拝・昼食】  
【観光・買物】

■会費 八、五〇〇円

■納骨 納骨ご希望の方は一霊につき二万円必要（納骨冥加金）

■申込 願成寺までご連絡下さい



### 開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会・団体参拝

五十年に一度の大法会が本山にて勤まります

来年の四月六日～十六日の期間です

当山では、一泊のバス旅行を企画中です

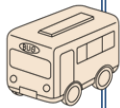
一泊旅行とし、皆様との交流を深めたく思います

詳細は未定ですが、ご予定下さい

■期日 平成二十四年四月八・九日（日・月）

■会費 二万円程度（予定）

立ち寄り先など、ご意見・ご要望があれば  
お寄せ下さい



## 念珠を持つ意味【私見】

心理学では次のようなことが定説となっているようです。

身体と意識を比べた場合、身体の方が先である。

例えば、悲しい出来事に接して涙を流す場合、

出来事を悲しいと意識したから、涙が流れるのではなく、

出来事にまず身体が反応し涙を流す、涙が流れているのだから

悲しいのだなど意識が分析を始める。

だから、理由も分からず涙が流れる、ということが起こりうる。

このことは、次の理論を裏打ちします。

決まった動作を行うと、それにまつわる意識が呼び起こされる。

難しく言いましたが、当たり前のことかも知れません。

では、お念珠に両手を入れて頭を下げるという動作、この動作で  
呼び起こすのはどんな意識でしょうか？

私の願いはワガママ、仏の願いはソノママ。

私達は、「ワガママな私」を忘れます。そして、

その小さな願いが叶わない時、大騒ぎしたり、塞ぎ込んだり…

もう苦しくて大変です。

忘れる私ですから、思い出させてくれる道具が必要です。

それが念珠だと思います。

だから、お念珠はとても大事です。

念珠に両手を通し、お念仏して、頭を下げる。

一連の動作にて、大きくなった妄想が破れ、

生かされている身の事実が知らされてくる、

小さな私が、大きな何かの一部であったと、救われていくのです。



行事予定 平成二十三年九月以降

十一月 三日 (木・祝) 高田本山団体参拝

本山の納骨堂法会に参拝します  
市内・近郊の高田派寺院と共に  
バスを借りての日帰り旅行です

平成二十四年

二月 十八日 (土) 報恩講

十九日 (日) 真宗寺院で一番大切な法会です  
法話 戸田 信行師

三月 二十日 (火・祝) 春季彼岸・永代経法会

恒例の彼岸の法会です  
法話 当山住職(仮)

四月 八日 (日) 高田本山・

九日 (月) 開山聖人七五〇回遠忌大法会

一泊二日・バス旅行にての参拝です  
詳細は次回のご案内

五月の夕方法話会を、力不足でキャンセルしてしまいました。  
申し訳ありませんでした。

想定している内容がどんどん小さくなり、  
想定外の事件がどんどん襲ってくる時代です。

娑婆世界は元々そんな世界だと釈尊は説いています。  
仏教には、そんな時代を生きるためのヒントが満載です。

法話を聞く機会を増やさなければ…と思っています。



後記

○ 九月六日の朝、まだ布団の中で咳をした時、腰に激痛が走り、ギックリ腰になりました。すごく痛いのですが歩けない程ではなく、三日間我慢して過ごしました。前かがみになると痛くて上体を支えられないので、パンツ・靴下を履くこと・歯磨きや洗顔に特に苦労しました。また、寝た状態から起き上がるのが大変で、イモムシになった気分でした。

○ 家族の勧めを拒否していましたが、運動会が近いこともあり、四日目に医者に行く大決心をしました。病気は気合で直すものだと信じています。お医者様は最後の砦です。重症者の行く所だから、待合室で待っている、大病を患ったような気持ちになります。気合が萎えて、病状が余計に悪くなる気がして怖いのです。

○ お医者様は注射を打たず、湿布と飲み薬をくれました。しかし全然効かず、症状はドンドン悪くなっていきます。運動会はキャンセルとなり、私の気力は壊滅状態となりました。砦はもうなく、もう治らないと覚悟し、介護のことを考えました。

○ 勧められて鍼灸院を受診したら、激痛が嘘のように消えました。ビクビクして笑いました。パンツも履けるし顔も洗える。

○ こんなことならもっと早く来ればよかった…  
無理をした分だけ痛みが残っています。コルセットをしながらのお彼岸の準備が思いやられます。

○ 医者嫌いは父譲りだと思えます。痛みに耐えながら意地を張っている父を馬鹿だな・駄目だなと罵っていました。そんなことだから癌が手遅れで早死にするんだ…と。でも、激痛の中でその時の父の顔が思い浮かび、なんだか懐かしく、癒されました。

亡き人の駄目な所が懐かしい

○ 時・場所・主体を変えると、マイナスがプラスに転じる。激痛の中でそんなことに気が付きました。相對の娑婆世界だから当たり前ですが、「当たり前ほど難しい」と仏教では教えています。